

# 課題対応・学校配置型（泉大津市）

- 教育委員会にサポーターを配置。必要に応じて、訪問支援や相談を実施
  - 市内全小学校に、週一回程度サポーターを配置。子どもの様子の把握や、保護者への相談支援を行う
- 学校配置型の支援と課題対応型の支援の二つの型を連動させて実施  
(平成30年度)

## 実施内容

### 【課題対応型支援】

- ①学校や福祉部局から支援の要請
- ②市教委でサポーター派遣を検討
- ③派遣決定後、担当サポーターが学校とケース会議を実施
- ④情報共有と役割分担後、家庭訪問を実施
- ⑤訪問後、学校・市教委に報告
- ⑥計画と役割分担を見直しながら支援を継続

### 【小学校配置型支援】

- ・各小学校の担当サポーターを学校に配置し、登校の様子や授業での様子を見守り、教員と情報共有
- ・問題行動等の未然防止や早期対応
- ・会議等にも参加し、教員と連携の上、必要に応じて家庭訪問型支援に切り替える



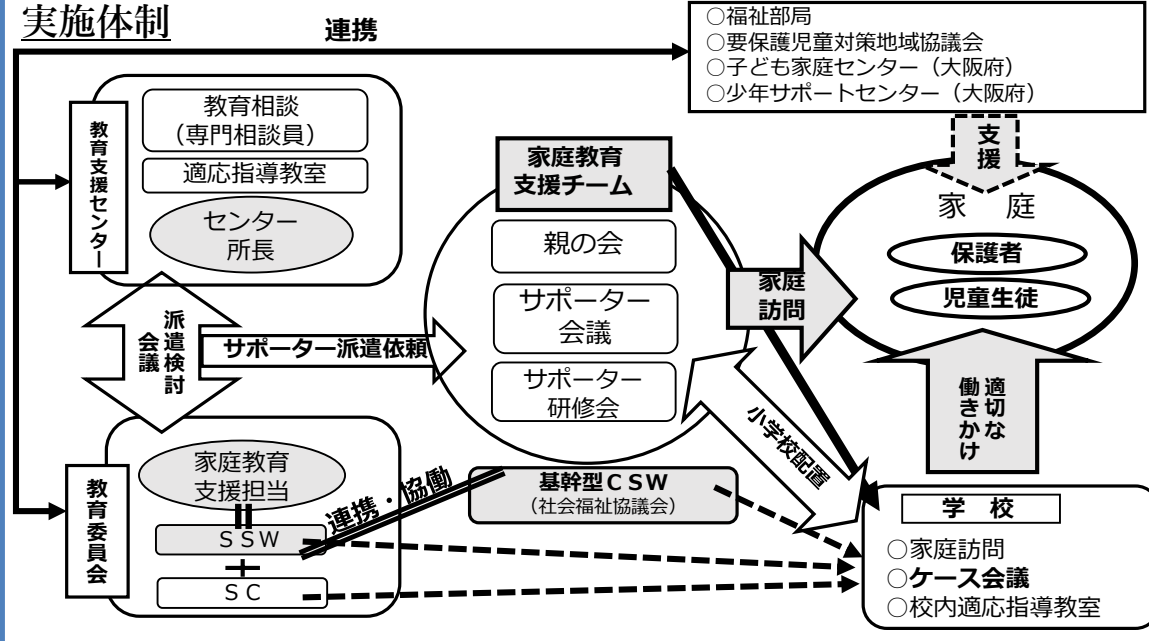
## 上記の支援と接続した家庭教育支援の取組み

- 親の会  
保護者が集い、交流する場、学びの機会を提供（毎月1回）
- 親学習講座  
対話や交流を通して、子育て等について学ぶ機会を提供

## サポーターへの支援

- カウンセリングに関する研修を受けた人をサポーターとして登録
- チームリーダーによる月1回の家庭教育支援サポーター会議での指導・助言
- 担当指導主事等によるスキルアップに向けた研修
- 地域協議会の開催
- 大阪府教育庁主催の研修等へ派遣

## 実施体制



## 成果

### 1 派遣による家庭訪問型支援

学校の教職員や市職員（教育委員会・福祉部局等）とは異なる第三者の立場で保護者に対して支援を行うことで、保護者がサポーターのことを身近に感じ、相談しやすい環境が醸成。訪問支援により、支援員との関係、子どもへの対応、他者との関わりについて改善が見られ（保護者のエンパワメント）子どもの学校での様子にも変化が見られるようになった

### 2 小学校配置型支援による未然防止・早期対応と継続支援

- (1) 登校時や授業中の見守りや会議への参加など学校のニーズに応じた時間帯の配置により、子どもの日常の様子を把握できるとともに、気付いたことをサポーターと学校が情報共有しやすくなるなど、連携の強化につながった。また、サポーターが学校で保護者からの相談を受けることができたり、訪問回数を減らしながら、配置型での見守りを継続したりするなど、2つの型を効果的に生かした支援を行うことができています
- (2) 小学校の教職員対象調査から、配置型支援による効果として「教員からサポーターに気になる子の相談をしやすくなった」「気になる子への支援をスムーズにできるようになった」といった回答があった